

15日は春の法要でした。お手伝いありがとうございました。桜も咲き、天候もちょっと肌寒かったのですが、まあまあでした。しかし、選挙の告示日と重なり、春の総会時期でもありでお参りの方が少なかったのが残念です。お供えのお饅頭は高森の吾妻食品(参与佐藤隆さん)に注文しました、好評だったようです。お花は下郷町柏木原の小山さんをお願いいたしましたところ、半分はお供え代わりにさせていただきますとのこと、ありがたいことです。



庭木についてもうひとつ話題が、住職の里のお寺の本堂の前庭にあるソメイヨシノが福山市の保護樹木に指定されたそうです。住職のころからすでに大きな木で、よく登って遊んでいました。高さ13m、幹は苔むしていますが、枝はずいぶん太くなり、最近石の柱を立てて倒れないようにしています。樹齢80年は超えているので、ソメイヨシノとしては異例の長生きだそうです。



例会のお知らせ

4月27日(金) 午後7時より
会費 2000円
出欠は 連絡が遅くなりましたので
国分会長まで 連絡してください
(Tel:27-8066)
入会希望の方もおいでください。
年会費 3000円まだの方
ご面倒ですが お届けください

今、庭木の植え替えを行っています。聞信精舎の駐車場に仮植えしていた木や裏庭の木を、境内の庭に移しています。殺風景だった駐車場につつじが植わり、本堂北側のどうだんつつじも少しずつ芽を吹いてきました。いろいろ緑が戻ってきて、次第に庭らしくなってきました。親鸞聖人の銅像のまわりも松を移す予定で準備が進んでいます。しばらくかかりそうです、楽しみにお待ちください。



残念ながら桜の咲いている写真がありません、秋の写真で想像してください。

門徒会館を利用した行事を企画中です。例会で話し合いたいと思っています、ご希望がありましたらぜひご意見をお寄せください。

ご門主法話

すべての人びとを大切にすることを築く

政治や経済界の指導者が、国民に向かって、愛を求め美を語る時、宗教家や芸術家は何を語ればよいのか、戸惑う今日です。美術芸術のことはその道の方に譲るとして、愛については、仏教の上からも、考えるべき事柄です。

愛という言葉に限ると、仏教の伝統では、良い意味と良くない意味とがあります。良い意味では、経典の「和顔愛語わげんあいご」という言葉や、正信偈の「一念喜愛の心」です。良くないあるいは、課題がある意味では、教行信証の「愛欲の広海」、和讃の「恩愛はなはだちがたく」のように、煩惱の一つの姿です。

子どもは周りの人びとから無条件に愛されるところに、自分のいのちに自信や誇りを持って生きる力が育ち、他の人を愛するところが育ちます。ですから、親の愛はわが子に限るという限界はありますが、その子にとっては、無条件の愛に近い素晴らしいものです。残念なことに近年は、子に対する愛のつもりが、親自身の願いや欲を実現する手段になっていたり、子の自立を妨げる過保護になっていることも少なくありません。

この様に、人間の持っている愛という感情には、人を支え、育て、慈しむ素晴らしい一面と、他の人や物を支配し、利用する自己中心的な面があります。愛国心にも二面があることを熟慮すべきでしょう。仏教やキリスト教はこの愛を一段、深めました。仏教には、自我へのとらわれを離れた慈悲があります。悪人凡夫の私を救ってくださる阿弥陀如来のお慈悲はその究極の姿です。

今日の深刻な問題は、人間を超えたところからはたらく温かさを受け止める力が弱まり、他人を受け入れるところが十分に育っていないことです。自己中心的な愛が目立ちます。すべての人びとを大切にすることを築くことも私たちの大切な課題です。

(大乘 2007年4月号より)

「仏事の小箱」

お忘れなきよう!

「あっ、忘れた! ちょっとそれを貸して」ある法事の場合のことです。

焼香を回そうとすると、背後でそんな声がしました。すると、「私も忘れたから貸して」と、別の声も聞こえてくるのです。

お仏壇の方を向いてお経を読んでいるのですから、何が起きているのか、見ることはできませんが、容易に想像はできます。

「忘れた!」というのは、念珠のことです。後で判明したのですが、三十人ほどの参詣者の中で、念珠を持ってこなかった人が半数にも達するのです。だから一つの念珠が、手から手へとリレーされていくのですね。

それにしても面白いなと思うのは、仏さまに向かって手を合わせ、礼拝するときに、念珠が必要なものだとは、みんな分かっているんです。だから、素手で合掌すると、どこか違和感があるようです。それで人に念珠を借りることになるのです。

それほど大切なものだ分かっているのなら忘れなければいいのに、と不思議な気がします

が、やっぱりいざとなると忘れてしまうのが念珠です。

言うまでもありませんが、お寺にお参りするとき、法

事に招かれたとき、そういう場に念珠を持っていくのは最低限のエチケットなのです。蓮如上人は、念珠なしで手を合わせるの、仏さまを手づかみにするようなものだとおっしゃっているくらいです。

だから、出かけるときは、何よりもまず、念珠を持ったかどうかを確認しましょう。もっとも、偉そうなことを書きましたが、衣を着ている身で、つい忘れて赤面することもあります。

(御堂さん 2007年4月号より)

